

学校と地域をむすぶ

大津市立葛川小・中学校

かけはし

地域コーディネーターだより

2014. 7. 28

NO. 2

夢プロジェクト

今年度も6年生は「夢プロジェクト」と題してキャリア教育を進めています。仕事や夢についての話を聞いて、働くことの苦労や工夫を知り、働くことの素晴らしさや仕事に対する思いを感じとりながら、今後の自分の生き方に役立てていくことを目的にしたプロジェクトです。5月から7月にかけて、葛川・久多の7人の方々をゲストティーチャーとしてお迎えし、お話を聞かせていただきました。

料亭経営 伊藤さん

比良山荘におじゃまさせていただきました。はじめは普通に入らせてもらいましたが、2回目はお客様を迎え入れる準備をした状態で、実際に「おもてなし」を体験させていただきました。お出迎える言葉や部屋の様子が変わったところに、お客様の気持ちになって「おもてなし」の意味を実感しました。常に、お客様が喜ばれることを考えながら仕事することは苦労がありながらも、大きな喜びを得ることができるという話に、このお仕事への熱い思いを感じることができました。



そば打ち名人 奥出さん

まず、たくさんの種類の包丁を見せていただき、その刃がとてもすり減っているところに、この仕事を続けてこられた長い年月の跡を見いだすことがで



きました。自分の夢をかなえるために知識や技術を身につけ、夢を実現するために思い切って行動にうつされ、海外で、そして久多で仕事をがんばってこられた話に刺激を受けました。子どもたちは今持っている夢を一人ひとり聞いてもらい、「身につけた知識や技術や経験は決して失われることはない。チャンスは待っている」と心強い励ましのお言葉をいただきました。

大工さん 入江さん

久多の山の木を久多の方に切り出してもらい、その木を使って久多に家を建てるという仕事をつい最近され、その仕事に対する喜びや地元のために役立ちたいという熱い思いを感じました。たくさんの大工道具を見せていただき、それを使って蜂の巣箱作りを教えてくださいました。木の板を組み立ててビスを埋め込み、とめていきました。入江さんの作業の見本はとても簡単そうに見えましたが、実際にやってみるととても難しく、改めて長年この仕事をやってこられて得られた技なのだと思います。ミツバチが巣を作ったらまた持ってきてくださるそうです。



特産物販売 椎葉さん

カフェ猪鹿村でお話を聞きました。レストラン・漁協・里山協会の3つの仕事を一人で切り盛りされていることのすごさにびっくりしながらも、いつもお客様が何を目的に来られたのかをまず確認してから対応されている心遣いにすばらしさを感じました。また、季節や地域の物を生かしたメニューやお土産品をいつも考えておられる話も心に残りました。ちょうどアユの幼魚の放流があり、久多に全校学習で行っていた他の学年の子どもたちもいっしょに、たくさんのアユを放流させていただきました。



シイタケ栽培 足立さん

シイタケ農園と佃煮工場でお話を聞かせていただきました。黒いネットで覆われたハウスの中のたくさんのシイタケの原木。この設備をお一人で作り、天候や動物からシイタケの環境を守るために、日々気を遣っておられるところにお仕事の大変さを感じました。また、何十年とお仕事を続けてこられた中で、シイタケの販売はどんどん拡大されており、ここで作られたシイタケが日本だけではなく海外でも食されている話を聞き、びっくりしました。



写真家 宮田さん

雑誌や本に載せる写真1枚のために、角度やシーンをかえながら何枚もの写真を撮り、一番いいものを選ぶということを知り、常にいいものを求め続けるプロ意識を感じました。また、ただ好きな写真を撮るのではなく、編集者やデザイナーの方々の要望に合わせ、共同で仕事をされていることも知りました。同じ写真は二度と撮れないので、その一瞬一瞬に常に緊張感を持っておられるところに感動しました。



陶芸家 川瀬さん

工房に入らせてもらおうと陶芸に使われる道具や作品が目飛び込んできました。早速、粘土をこねてろくろを回すところを実際に見せていただきました。みるみる間に形になっていく小鉢を見ながら、その技に感動しました。一人ひとりろくろを回して盃や小鉢を作らせていただきましたが、なかなか思ったように形にならず、やはり長年この仕事をやってこられたその経験の重みを感じました。「土もみ3年ろくろ10年」という言葉や今でも人が作らないようなものを作りたいという目標を持たれている話に、「すごい！プロやあ」という声をあげる子どもたちでした。



すてき発見 坊村探検



1・2年生が生活科の学習で坊村探検に行きました。実際に坊村の中を歩きながら、そこにあるものや出会った人とふれ合いながら、たくさんの「すてき」を見つけられました。去年見学させてもらった郵便局に是非立ち寄りたいという子どもたちの思い。「去年は見学させてもらってありがとう」とお礼を言いました。また、途中で出会ったグラントゴルフをいっしょにくださったおばあちゃん。「いっしょのチームやったなあ」と声をか



けくださり大喜びの子どもたち。比良山荘では、どうしても見せてほしかった鯉やお部屋、厨房を子どもたちからお願いして見せていただきました。支所では、入口を入っただけではわからない奥の部屋や二階の部屋を案内しても



らい新たな発見。自然の家では二段ベッドのある宿泊室や大きなお風呂を見せてもらい、3年生になった時の自然の家のお泊まりが楽しみにになりました。また、自然の家のまわりでは、たくさんの生き物を見つけて夢中になりました。ただ見学させてもらうのではなく、「〇〇を見せてください」「〇〇を教えてください」と自分たちで考えてお願いをしながら、多くの人とふれ合ったり、見つけた「すてき」を自分たちで写真に撮ったりするなど、子どもたちが計画し実行した探検になりました。お世話になった皆様方、ありがとうございました。



自分たちの手で美しく

葛川の地域では、「琵琶湖一斉清掃」として各町6月下旬から7月上旬にかけて缶拾いや草刈りなどの掃除が行われました。その「琵琶湖一斉清掃」に関わる取り組みとして、小学生と中学生全員で「地域清掃」を行いました。中学生をリーダーとして2つのグループに分かれ、診療所前と自然



の家のキャンプファイヤー場の草取りをしました。丈の高い草を鎌で刈ったり、芝生にまじって生えている細かい草をより分けながらいねいに抜き取ったりしました。ぬき取った草をほうきで掃いたり、集めて回ったりするなど、それぞれの役割をこなしながら



も声をかけ合い力を合わせて作業に取り組む姿も見られました。30分ほどの



限られた時間でしたが、手を休めることなく一生懸命作業に取り組み、草がなくなりすっきりとなり、「がんばってよかった」「きれいになったなあ」とすがすがしい気持ちで坊村を後にしました。

「健康は腸から～いつもチョコ(腸)元気に～」

昨年度に引き続き、今年度も健康についての学習会が中学校と公民館の共催で行われました。今年度は、京滋ヤクルト販売(株)より講師の先生方をお招きして、中学生全員と公民館講座にお申し込みいただいた約20名の葛川の地域の方々に、腸のお話を聞かせていただきました。まずは、朝食や生活習慣、うんちなどについての「腸年齢チェック」。「いっぱいチェックあるわ」「一つもないで」など、自分の腸は元気なのだろうかときどきでした。いったい小腸はどれぐらいの長さがあるのか? 模型の小腸を引



っ張り出すとどんだのびます。約6m。「そんな長いものがおなかの中に入ってるんやあ」と驚きの声。その腸の中には100兆個ほどの(重さにして1kg!)菌がいるそうです。おなじみのビフィズス菌や乳酸桿菌などの良い菌を増やすと腸は元気になります。腸は元気なのか? 「うんち」を見てください。よい「うんち」を作るためには、バランスのとれた食事や運動、そして適度な休養が大切です。腸のまわりの筋肉を鍛えるための「おなか元気体操」も効果的ということで、みんなでやってみました。座ったまま、立って行う体操はけっこうハードでしたが、この体操を続けるとチョコ(腸)元気になるそうです。地域の方々といっしょに楽しく貴重な学びができました。腸は健康のバロメーター。



「健腸長寿」。元気な腸で長生きしましょう。

滋賀と京都のおまわりさんによる自転車教室

今年も滋賀と京都のおまわりさんにお世話になり自転車教室が行われました。いつもは久多・葛川の駐在所さんにお世話になっていますが、京都と滋賀という県をこえての合同企画の自転車教室でした。久多駐在所の野々口さん、葛川駐在所の辰巳さんをはじめ、京都下鴨警察署や大津北警察署から7名のおまわりさんに来ていただきました。学校の外に出て自転車走行の実習を行う予定でしたが、あいにくのお天気となり、体育館の中での活動になりました。自転車走行に関するクイズに答えたり、シュミレーターを使ってゲームのように自転車を走らせながら交通ルールを確かめました。自転車の点検のやり方も実際に自転車を使って教えていただきました。そして、体育館につくられた自転車走行コースを子どもたち一人ひとり自転車に乗り走ってみました。出発前の安全確認や障害物のある場所の通行の仕方、信号や「止まれ」看板のある場所での安全確認の仕方などその都度しっかりチェックしながら走ることができました。ここで学んだことを是非ふだんから実行して、安全に自転車に乗ってほしいと思います。

学校林で下草刈り

5月に木おこしと補植をした学校林。夏休みに入り、7月終わりに小学生と中学生で下草刈りに行きました。下草刈りは今年で3回目になります。経験者の子どもたちは、どれぐらい草に覆われているのだろうと想像しながら、またはじめて体験する子どもたちは下草刈りってどんなことするのだろうとわくわくしながら、足尾谷に歩いていきました。足尾谷に着いた時にはすでに森林組合の中西専務、織田さんが準備をしておいてくださり、上の階段や歩く道など刈り払い機できれいに刈っておいてくださいました。

中西専務から「スギの木はすくすくと大きくなってきており強い木ですが、ヒノキやシイの木などはまわりの草に負けてしまとなかなか生長できないので、まわりに生えている草を刈ってあげることが大事です。それを下草刈りといって、10年ぐらいは続けなければなりません。」というお話を聞きました。スギの木は黄緑色の今年生長した部分が20cmぐらいになっており、背丈も大きいものは2mぐらいになっていました。しかし、ヒノキなどは春にネットで覆い鹿に食べ



られてはいないものの、まだまだ小さくてまわりの草の方が元気よく大きく伸びています。鎌を使って草を刈るので、茎にななめに当てるように、ススキは手を切るので素手で握らないよう、イバラなどはトゲに気をつけるように



など、草を刈る時の注意もしていただきました。中学生と小学生がペアになって作業に入りました。

「あっ！植えた木や」と草に埋もれたスギやヒノキの木を見つけて、まわりの草に鎌を入れます。「この間の草も刈った方がいいよ」「もう少し下の方から鎌



入れて」など、中西専務や織田さんが子どもたちの所に行ってお話を聞きました。「刈れた！」と使い慣れない鎌で背の高い草を刈りとれたことに喜び子どもたち。「とげとげ痛い



けど刈れた」とイバラの木をがんばって刈り取る子どもたち。前もって草を刈っておいてくださったおかげで、山の斜面も歩きやすく、植えた木も見つけやすかったので、短い時間で作業を終えることができました。木を守り、育て、大きくしていくためには、大



変な作業が必要であり、それを続けていかなければならないのだということを改めて感じ、10年後にはどれぐらいの大きさになっているのだろうと楽しみにする子どもたちでした。いつも学校林の様子を見てくださっている森林組合の方々、そして準備やご指導をいただいた中西専務、織田さんありがとうございました。

防災訓練講座

7月25日に防災訓練体験講座がありました。大雨による土砂崩れで中村地区が孤立状態になったという設定で避難訓練が行われました。大津北警察署、大津北消防署、葛川駐在所、葛川支所、葛川学区自主防災の皆様方にお世話になりました。中村町の住民の皆様にも学校への避難に参加していただきました。実際にヘリコプターが学校の屋上の上に来て、ロープを使って人が人を救出する様子も見せていただきました。運動場にある防災倉庫の中や機動隊車の仕組みや装備を見せてもらいました。防災士の飯島政彦さんには、土嚢の作り方を教えていただき、自主防災の皆様方にも手を貸していただきながら、実際に一人一袋ずつ土嚢を作ってみました。災害が起きた時に、少しでもその被害を軽くすることができるように、また自分の身を安全に守るためにも、ふだんから心得ておくことが必要であると思いました。お世話になった地域の皆様方、ありがとうございました。